



卒業生の皆さまへ
～行動が知の完成なり～

最終学年のこの一年はコロナ禍で満足な学生生活を味わうことが出来なかったことは残念なことでしょう。しかし、永い人生のこの一幕は貴重な体験になります。この危機が課題解決のチャンスであり、果敢に課題に取り組む意欲こそがよりよい社会を生み出す行動になるでしょう。

卒業式という英語の Commencement にはご存じと思いますが、「開始」という意味もあります。これから新しい場面へと登場することになりますが、何事にも行動が大事であり、「行動が知の完成なり」という錢の言葉を贈りたいと思います。

昨今、日本の凋落が憂慮されています。我が国の GDP で見ると 1989 年には世界の 15% であったものが、2018 年には 6% まで落ち込みました。また、「国際競争力ランキング」でも 1989 年から 1 位であったものが、2002 年には 30 位と変わり今も続いています。「失われた 30 年」であります。

何故、この様な状態になったのであろうか。今や、変化の激しい時代ですが、変化はチャンスであり、チャンスを生かすには迅速かつ果敢に行動することが必然となります。この果敢な行動が伴っていないことが大きな要因と言えるのではないのでしょうか。

光通信システムが未だ世に出ず、これからと言う黎明期にこのシステムの開発に携わっていました。1975 年頃で私の若き日のことです。ところが、光通信システムの開発には欠くことの出来ない光ファイバーの供給は、当時世界で米コーニング社一社なので入手が困難でした。そこで、私は未だ担当の責任者でしたが、アジャイルに進展させるために、直接の上司を飛び超えて社長に直訴し、自前の工場に創設する許可を取り付けました。

ここからが大変で、担当総力を挙げて光ファイバーの製造法に取り組み、1 年もかからずに製造ラインを作り上げることが出来、米国のノースイースト・コリドー計画商談の入札の一番札となることが出来ました。これは正に光ファイバーの知識を学び、それを実行し成果に結び付けた行動の成果です。

陽明学で「知行合一」と言うことが言われております。知ることと行うことは本来一つのものであるとするのが「知行合一」です。即ち、色々な形で学び知った知識のみでは本当に知ったことにはならず、その学んだことを行動に移し、結果が出てこそ本当に知識を習得したと言えるのです。

卒業後各分野で活躍する皆さんの行動により、この変化の時代に、変化と言うチャンスを捉え、「失われた 30 年」から脱却し、発展ある日本を取り戻して欲しいのです。常に、千変万化の戦略と勇猛果敢な行動が求められるのです。

2021 年 3 月吉日

東北大学関東萩友会 会長

大槻 幹雄

(1954 年工学部卒)